

如く、次で侍従と喃々せるは、如何に未開の人種とは云へ、苟も汗王の母たる身を以て斯る奇怪の状態を縦にせんとは、予も亦啞然たらざるを得ざりし。通譯予の状を察して曰く、佛を指す、不敬之に過ぎたるは無しとぞ、彼の喃々たるは則ち斯くても佛は日本人を罰する無きやと云ふに在りと。迷信の極佛を指し能はざるは噴飯の至りに堪へず。

歸途喇嘛廟に案内を請ふ。廟は皆氈幕、其數大小二十餘ありて、幕内何れも佛像を安置し、諸種の供物を捧げ、十數名の僧侶左右に列座し、鼓を打ち鐘を鳴らし、朗々讀經する様、恰も我寺院と大同小異のみ。

翌十一日大風の爲め此地に滞在す。

九 氈幕の携行

伊犁出發以來、或は哈薩克或は蒙古族の歡迎優待を受け、終始其の設備せる氈幕内に宿泊し來りたり。而して本日以東の沿途は、吐爾扈特族の游牧地なるも目下冬窩子トシウオズより夏窩子シャウオズに移住する時期なるが故に、沿道宿泊地の近傍に就き氈幕等を徵發すべからず。況んや蒙古族は哈薩克に比すれば一般に貧窶且つ不潔民種な